

平成22年3月

松岡宏至 学位論文審査要旨

主査 村脇義和
副主査 池口正英
同 林一彦

主論文

消化性潰瘍患者の背景胃粘膜における癌抑制遺伝子プロモーター領域の異常メチル化頻度の検討

(著者：松岡宏至、原田賢一)

平成22年 米子医学雑誌 掲載予定

審査結果の要旨

胃潰瘍患者と十二指腸潰瘍患者とで胃発癌のリスクが異なることを背景に、消化性潰瘍の胃粘膜における癌抑制遺伝子 $p16^{INK4A}$ 、 $hMLH1$ 、 $RUNX3$ 、 $CDH1$ 、 $CDH13$ のプロモーター領域の異常メチル化頻度を検討した研究である。その結果、 $p16^{INK4A}$ メチル化を高頻度に認めたが、胃潰瘍患者と十二指腸患者とで $p16^{INK4A}$ メチル化の頻度に差を認めなかった。胃潰瘍患者ではHP感染の有無、および胃炎の程度と関連して $p16^{INK4A}$ メチル化が多くなった。一方、十二指腸潰瘍患者ではHP感染とメチル化との間に関連がなかった。なお、胃潰瘍患者での $p16^{INK4A}$ メチル化はHP除菌により改善した。

本論文は消化性潰瘍での胃粘膜の癌抑制遺伝子のメチル化を詳細に検討したものであり、明らかに消化性潰瘍分野での学術水準を高めたものと認める。